

Tezukayama

University Letter 2008.7.25

大学通信帝塚山



TEZUKAYAMA UNIVERSITY
大学通信 帝塚山 企画編集委員会



CLOSE UP PEOPLE:P15 安光日(アン・コウヒ)さん

大学通信
帝塚山

University
Letter
2008.7.25

NO.23

就任のごあいさつ

山本良一学長



4月1日付で学長に就任いたしました。これから3年間、学長として帝塚山大学の発展のために、力を尽くしたいと思います。

大学は学園運営の中心であることは言うまでもありません。現在、その大学を取り巻く環境は非常に厳しく、ご承知のように、18歳人口の減少で大学全入時代を迎え、他大学との学生獲得競争は年々熾烈になっております。我が大学も例外ではなく、その厳しい環境に立ち向かっていかねばならない状況にあります。

そもそも、教育というのは、高邁な目的を持ったものであり、大学は特に、高度な専門性を持った教育・研究をするところであると位置づけられてきました。したがって、大学では研究に裏づけされた教育をするのが当然であり、教育のために研究は必須なことであったので、現に、今も研究を中心に教育を進めている大学も多く存在します。

ただ、最近、少子化と大学進学の大衆

化で大学は大きく変貌してきました。大学進学率が50パーセントを超えている状況では、大学は昔のように研究をベースに教育をするだけでは、立ち行かなくなっています。まず、学生への教育力がどれだけあるかが問われる時代になったと言えます。

私は「大学はサービス業」であると思っております。高い専門性をもって学生を教育するよりは、教養と専門性を兼ね備えた人材（学生）を養成する時代にいよいよ突入したと言うことです。入学してくる学生に、専門への導入を出発点にした教育を行うことで、社会の要請に応えなくてはなりません。そのために、教職員の強い協力は欠かせません。

学生へのサービスとは、施設の整備面だけでなく、なにより教育機関は人間が人間を教え導く場なので、学問を媒介に人間と人間が触れ合う場を創出することだろうと思います。そういう意味で、教職員が学生と接触する機会を持つことは非常に大切です。教職員はその機会と場を増やして、彼らの心をつかんでほしい。まず教職員が学生の目線に立ち、学生に積極的に声掛け運動などを行ってほしい。外国の大学における、学生に対するサービス精神から学ぶところは多いと言えるでしょう。今後の大学の発展のためには、教職員の意識改革は必須

だと考えます。

また、昨今の学生気質は変化しており、学生に対する授業法にも工夫が必要です。大学を卒業したにもかかわらず、社会人に必要な能力に達していない人が少なくない今、社会人になるための基礎力を大学で教育することが急務となっています。だからこそ大学の初年次教育を重視し、全学で充実させなければなりません。そして、専門課程への接続をスムーズに行うことで、卒業後、社会人として生きていく「武器になる力」を身につけさせ、学生に自分の進む道を見つけてもらうのです。これが今や大学の責任であり、大学の教育力であると、私は考えます。

本学では、学生への初年次教育を充実させるだけにとどまらず、各種の資格取得の支援も全学で積極的に行っています。社会が要請する人材を育成するという意味では、保育士と幼稚園、小学校の教員免許の3資格が同時に取得できる、現代生活学部こども学科（2009年度開設予定）にも大きな期待が寄せられるところです。

社会に役立つ人材を育成し社会に送り出すために、教職員の更なる意識改革から始める大学の改革を推進していく所存です。

関係の皆様方のご支援とご協力を、心からお願い申し上げます。

山本新学長の就任に伴い、就任した2名の副学長をご紹介します。



落合 史生
(経営情報学部 教授)

主たる担当
図書館長、広報、教学支援、自己点検・評価部門、出版会、T・I・E・S、社会連携、産学連携、地域貢献、生涯学習、後援会 ほか



中山 伸
(現代生活学部 教授)

主たる担当
学生生活、国際交流、人権教育、学習支援、キャリアセンター、留学生センター、同窓会 ほか

新しい顔

(二〇〇八年四月一日付就任)

- 経済学部准教授 斉藤 都美
 - 経済学部講師 井川 静恵
 - 経済学部講師 蟹 雅代
 - 法政学部講師 川添 一郎
 - 心理福祉学部准教授 水野 邦夫
 - 現代生活学部教授 河合 洋見
 - 現代生活学部教授 南 憲治
 - 現代生活学部准教授 尾立 純子
 - 現代生活学部准教授 戸倉 三和子
- (敬称略 学部内五十音順)

現代社会が求める保育士・教員の養成

2009年4月

こども学科を開設

(現在、文部科学省に設置認可申請中)

現代生活学部「こども学科」の開設を予定しています。

今日、家庭と地域の教育力が低下し、子どもたちが健全に育つための土壌が弱くなっています。このような社会状況を受けて、これからの保育士や教員には、しっかりとした「こども理解」に基づき、保護者や地域の人たちと連携して子育てを支援する力が求められています。

本学のこども学科では、子どもたちを取り巻く社会状況の変化を的確に受け止め、教育現場に何が求められているかを分析したうえで、現代社会が求める、豊かなコミュニケーション能力と実践力を有する保育士と教員の育成に取り組めます。子どもたちの健やかな成長・発達を援助する人材の育成を目指しています。

2009年4月に新校舎の供用を開始します。

新校舎は駅から近い利便性の高い場所に建設中です。「こども学科」の施設にふさわしく安全で安心して利用できる、学生にとってアメニティの高い学びの場を整えています。保育・幼児・初等教育に関するさまざまな実習が行える施設やカフェテリア・ラウンジなどの学生生活を豊かにする環境づくりを行っています。



新校舎イメージパース

充実の実習施設

音楽室・音楽レッスン室・ピアノ個人レッスン室・造形室・体育室・情報処理演習室・保育演習室・小児保健実習室・ケースワーク実習室・実習センターなど、充実した実習関連施設が完備しており、実習を通して保育・教育現場で通用する力を養成します。



●音楽室
ヘッドフォン付デジタルピアノにより、歌謡教材の伴奏を実習します。このほか、防音設備を完備したピアノ個人レッスン室(10室)なども完備しています。



●造形室
絵画や彫像などさまざまな造形に取り組むなかで、自らの表現力を豊かにするとともに、子どもたちの感性を高める方法についても学びます。



●保育演習室
子育て支援室との間仕切りを外すと、床面積完備の約320㎡の広々とした空間となり、地域の子どもたちにも開放します。



●実習センター
資格取得のため、保育実習・幼稚園実習・小学校実習などが用意されています。実習先との連絡・調整を行い、スムーズに参加できるようにサポートします。

こども学科の特色

※保育士養成課程計画中、幼稚園教諭1種、小学校教諭1種免許課程申請中。



現場では・・・幼・保・小の連携が必要とされています。

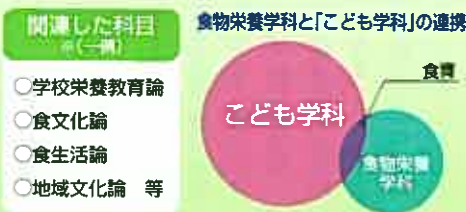
時代の要請に従って、保育所と幼稚園の連携が進行しており、将来は一本化していくものと考えられています。また、これからは「幼・保」と「小学校」との連携や接続が望まれるようになるでしょう。そのため、幼・保の現場では小学校教育の知識が、また小学校では保育所・幼稚園教育の専門知識が必要となり、トータルで資格を有することがメリットとなります。

誕生から小学校まで、子どもを長期的に理解できる人材を育成します。

保育所・幼稚園と小学校の連携・接続を進めることが求められています。このような動向に対応するために本学科では、幼稚園・保育所連携を強めるとともに、就学前の教育・保育を一体として捉え、「保育士」「幼稚園教諭」および「小学校教諭」の3つの資格取得が可能なカリキュラム編成を実現しました。これにより、誕生から小学校段階までの子どもの発達とその道筋が長期的なスパンのもとにより深く理解でき、子育てにかかわる今日の社会的要請に対応する能力をはぐくみます。

食育に着目しています。

平成17年に制定された「食育基本法」をふまえ、子どもの発達段階に応じて、子どもたちに食育教育を行うことのできる人材を育成します。その際、本学の現代生活学部・食物栄養学科の科目*を履修できるようプログラムを連携。また、こども学科の独自科目として「こども食育論」を開講します。



※こども学科の記載内容はすべて予定であり、変更になる可能性があります。

子育て支援センターとの連携

新校舎内に開設される子育て支援センターでは、地域に開かれた施設として、地域の保護者や子どもたち同士の交流のお手伝いをしたり、子育て講座や親子のふれあい遊び、また子育てに関する相談活動など各種のプログラムを企画・実施したいと考えています。ボランティアとして、子育て支援センターに来られる保護者とかかわり、子どもたちと遊ぶことにより、授業では得られない現場で役に立つ実践的な力が身につきます。



学外実習科目が充実

現場に立った時に力を発揮するためには、実習経験を積むことが大切です。学外実習をより実りあるものにするため、受け入れ先との連携を図りながら実習を全面的にサポートし、事前指導を充実させ、実習後の指導・評価も確実に行います。また社会性を養うため、ボランティア活動への参加を積極的に支援します。

事前指導

現場実習

事後指導



英語文化学科は 英語コミュニケーション学科になります。

英語文化学科は平成21年度から英語コミュニケーション学科へと名称変更になります。それに伴い学科のカリキュラムも大幅に変わります。

目標をより明確化したカリキュラム編成を実施して、学生のニーズに応えられるような科目群の設定を行いました。次の4群がカリキュラムの中心となります。

- ①「英語コミュニケーション能力養成」科目群は実用的な英語能力と対人的コミュニケーション能力の向上を目指すことを目的とします。
- ②「英語資格」科目群は英検、TOEIC、TOEFL、通訳ガイド試験などの資格取得を可能にすることを目的としています。
- ③「日本文化」科目群は日本文化を英語で発信するための養育となる日本文化に対する深い知識の習得を目的としています。
- ④「異文化理解」科目群は英語文化圏に関する知識や異文化コミュニケーションの習得を目的とします。

これらの科目群から学生は自分の目標に応じて柔軟に科目を選択できます。例えば、TOEICならば、目標450点以上の科目、600点以上の科目、750点以上の科目のよう自分の実力に応じた科目を履修することが可能です。

さらに、新カリキュラムでは学外実習（臨地講義）で観光英語を学ぶことや、海外研修を新規実施し、より実践的な英語学習の機会を提供しています。また英語標準テストを1年入学時、1年、2年、3年終了時に実施して学生が自分の英語力の向上を客観的に理解できるようにしています。

英語コミュニケーション学科は学生が卒業後に社会にはばたいて行く時、英語力を十分に活用できる学生を養成することを目標としており、グローバル化した現代社会で生き生きと活躍できる卒業生を輩出したいと考えています。

スポーツユニットの導入

近年、「生きる力」を身に付けることの重要性が指摘されています。大学でも、高度な専門知識と、一般教養や常識と共にコミュニケーション力、明るさ、バイタリティなどの「人間力」を身に付けることも大事になってきています。就職に際しても、企業の面接では、この「人間力」が重視されています。この様な状況を踏まえ、スポーツ系の常識を持ち、またスポーツで培った礼儀作法を含めた幅広い「人間力」を持った、文武両道の学生を養成する目的で、平成20年4月以降入学の学生にスポーツユニットという制度を導入しました。1年次の末に、スポーツクラブに所属して活躍している学生を中心に、全体で60名程度の学生を受講生として選抜する予定にしています。

このスポーツユニットの科目の例としては、「スポーツマナー論」、「指導者の役割」、「スポーツトレーニング論」などがあり、スポーツを通して正義感やマナーを身につけるだけでなく、子どもたちの指導者になるための知識やスポーツジムなどでの指導者になるための知識、スポーツ店を経営するときに役立つ知識など、幅広いスポーツ系の知識が学べます。



英語による奈良観光ガイド人材養成プログラム(中間報告)

「英語による奈良観光ガイド人材養成プログラム」は文部科学省委託事業「社会人の学び直し」ニーズ対応教育推進プログラム」の平成19年度の公募に、本学が応募して採択された事業です。

本事業は観光英語の習得を目指して発信型英語の訓練を行い、英語で奈良の観光案内ができる社会人を養成することを目的として企画、立案されました。本プログラムを通して奈良観光を活性化し、観光業界への再就職の道筋を与え、ひいては奈良の国際化と活性化に寄与する人材育成を目指すものです。

プログラムは平成19年の秋に第一期の受講生を募集しましたが、募集人員25名に対して361名の人々が応募されました。書類審査、筆記試験、英語による面接で最終的に28名を受講生として受け入れられました。第一期生28名は約4ヶ月間、120時間の集中講義を無事に終了し、全員が履修証明として「帝塚山大学奈良観光英語案内士」の称号を付与されました。



修了生は今後様々な分野で活躍されると思われませんが、帝塚山大学はできる限りのフォローアップ、支援を修了生に対して行っていきます。第二期も平成20年5月からプログラムを実施しており、受講生の皆さんは毎日の授業や臨地講義に奮闘されています。本事業はまさしく「社会人の学び直し」に合致した取り組みと自負しており、今後、第5期までプログラムを実施し、有用な人材育成を果たしたいと思っております。



国際ビジネス法務塾(中間報告)



本学が実施している「国際ビジネス法務塾—国際ビジネス法・ビジネス英語 交渉力のスキルアップのために—」は、文部科学省委託事業「社会人の学び直し」ニーズ対応教育推進プログラム」の平成19年度の公募に採択された取り組みです。

現代の国際社会では、グローバル化・シヨンの進展に伴って企業の国際化が進展する中、国際取引において、国内法規、ビジネス慣行、あるいは文化・伝統・考え方の相違などから様々な摩擦や紛争が生じています。そのため、このような国際ビジネス紛争を法的に解決し、予防する能力を備えた専門家が必要となっています。

「帝塚山大学国際ビジネス法務塾」は、前記の社会的要請を念頭に、グローバル時代に必要な人材として、国際ビジネス法、ビジネス英語、交渉力を兼ね備えた「国際ビジネス法務士」を関西において塾という少数精鋭方式で養成し、社会人の再チャレンジを推進するとともに、関西の一層の国際化と活性化につなげることを目的に設置したものです。

第一期は、平成19年度の秋に受講生を募集し19名の受講者を決定しました。受講生への交通の利便を考慮し、大阪市北区中之島にある本学大阪サテライトの教室での開講とし、11月26日から全10週で総時間120時間、実務経験豊富な講師による授業を実施。17名が履修証明証と「帝塚山大学国際ビジネス法務士」の称号を授与されました。また通常授業の他には、合宿でフィッシャー&ユージー「ハーバード流交渉術」を輪講の上、交渉の実践を行ったり、外国人講師による特別セミナー(3回開催)で海外の国際ビジネスに関連する法の状況について聴講してもらいました。

第二期も平成20年4月21日(月)〜平成20年7月19日(土)の4ヶ月(12週間)で実施し、7月26日(土)に閉講式が行われました。平成21年度の秋の第5期まで、国際社会の要請に応え得る有為な人材の育成に取り組みます。

表彰関係

平成20年度の特別奨学生が別表（P7）のとおり決定し、東生駒、学園前キャンパスで表彰式が行われました。これは「帝塚山学園特別奨学金制度」に基づくもので、1年生は入学試験成績の上位5%以内の学生、2年生以上は前年度の成績が上位5%以内の学生が表彰されるものです。



平成19年度の特別奨賞金は、22名の学生が受給しました。「帝塚山学園特別奨賞金制度」は、在学中に特設資格セミナーのレギュラーコースの定める資格または試験、それと同等以上と認められた資格を取得するか、試験に合格した場合、奨賞金を支給するものです（P7）
また、各学部では前年度の成績が優秀であった学生をそれぞれ表彰し、各学部長が表彰式で栄誉を称えました。（P6）

2009年度より「特別資格サポート制度」がスタート

2001年度より難関資格の取得を目標に8年間実施してきた「特設資格セミナー」は、2008年度新入生の新規募集をもって終了し、2009年度からは、更なる難関資格取得に向けての新たな支援として「特別資格サポート制度」がスタートすることとなりました。

【特設資格セミナー】は、1年次より年次進行するなかで4年次に資格採用試験に臨むことから、2009年4月以降の初級のセミナーから順次開講していくこととなりますが、新たに始まる「特別資格サポート制度」で、特設資格セミナーで開講していた一部資格に加え、全12種類の資格等へのチャレンジをサポートするハイレベルな専門資格講座の受講が可能となります。

詳しくは決まり次第、学内掲示や本学ホームページを通じ発表いたします。

各学部表彰学生一覧

心理福祉学部	
心理学科4年次生	地域福祉学科4年次生
小澤 弘希	加藤 綾
楠田 理恵	小原 令愛
小谷 麻里恵	高田 依代
鈴木 里佳	山西 紀律代
下野 朋子	大西 郁世
心理学科3年次生	地域福祉学科3年次生
浅野 由佳梨	大植 菜々
武村 美幸	中尾 充典
西村 直樹	野中 千尋
松下 純子	細田 有香
村田 鮎実	チン エンカ
心理学科2年次生	地域福祉学科2年次生
上田 剛子	武田 寿乃
中島 安紀子	中濱 祐美
中原 正夫	中林 歩未
前川 静香	キム ミ スン
松岡 淨英	ガイ ケイコウ

経営情報学部		
4年次生	3年次生	2年次生
伊藤 早苗	青木 涼子	芦田 聡
乾 洋文	安藤 昭弘	石川 達也
小川 雄也	井上 菜々子	伊庭 由佳子
加藤 健	上好 なぎさ	高村 達也
嶋川 聖崇	北森 克樹	西野 碧香
高橋 紀子	小濱 一仁	益田 卓哉
司 恒太郎	築地原 憲吾	松元 啓祐
寺嶋 祥子	西本 崇央	想 佑太
嶋本 紗緒里	野下 みどり	森 康悦
松岡 莉沙	廣田 早空	山中 彰
丸尾 淳	松井 大輔	山本 彩加
山田 拓志	矢倉 直紀	ゲン ケイエイ
オウ ヒ	キョ エイグン	チョウ ユウ
ショウ シン	キョ カイリュウ	テイ レイキ
デン セツ	サイ メイカ	ヒ セイクン
ハク ギョクキ	テイ ヨウ	ホウ チコウ
アン ソンヨン	ハス ポリガ	リュウ タン
オウ コウウ	リン コザン	リン コウ
オウ ブンセイ	リン ショウシュウ	リン シュンコウ
キ シュンキョウ	チョウ リツハ	リン ホウケン

経済学部		
4年次生	3年次生	2年次生
浅井 千佳	井田 徹哉	稲葉 史敬
岡西 悠樹	井上 裕規	浦井 雅考
岸 知宏	岡本 佳奈	大橋 寛
橋本 良子	岡志 和史	黒川 千尋
坂上 桃子	小林 真名実	小山 雅宏
高見 賢太郎	志野 徳英	里村 竜治
貫野 文	竹中 留美	左納 淳
田中 貴久	武部 善行	高松 紀之
中内 聖人	中村 友徳	原内 崇広
穂田 夏季	畑下 享洋	オウ エン
松尾 知哉	堀 あゆみ	オウ チョウキョウ
水本 園雄	百野 厚史	ガイ コウ
森田 一成	森田 紳子	ゼン シュンバイ
飯本 卓也	山内 啓輔	ゾウ レイエン
アン コウヒ	オウ セイ	チョウ ショウショウ
キョ ハ	カ シン	チョウ セキ
ケン ゴコウ	カツ セイヘキ	チョウ ライ
リョウ タクトウ	チヨウ シザン	テイ アン
チン ショウケン	ナルンモンドラ	トウ ショウレイ
トリアジナカガ ムソフド	ハイ キョウコ	ハン ヨウ

法政美学部	
新藤 克典	谷口 彰
澤木 秀昭	原 依里
杉内 伸雄	前田 基裕
野口 仁史	栗山 大史
ソウ キイ	小田切 友樹
伊藤 諭	樺田 翔伍
大西 佑樹	松原 正宣
大森 敦史	和田 香香
加藤 あゆみ	花岡 優
島原 一磨	古澤 寛寛
中西 淳志	山口 真弥
中村 亮太	石川 雄一
福井 新	奥野 崇裕
吉田 崇将	柴田 竜彦
エン ウンキ	角町 和昭
白井 竜児	灰原 良
中子 葉月	橋尾 健太
西村 伸	宮内 亜友
久留 匡弘	山本 貴司

人文科学部		
4年次生	3年次生	2年次生
有水 啓太	安達 奈央	安藤 由紀乃
酒井 貴史	磯部 朱央	大塚 麻未
新谷 秀一郎	江木 敦人	岡本 理沙
松谷 あすか	川内田 有実	小林 洋子
松村 翔太	長島 加奈	清水 絵理
南 愛	野田 知美	杉本 麻美
山岡 由貴	前嶋 真吾	藤島 智史
リュウ ショウエン	梁田 明日香	コウ カクニチラクト
尾崎 英留子	山田 友美	チョウ ウンジ
ニウ エイ	渡辺 千明	チン ソン
織田 留子	勝本 由美子	笠原 佐世子
小野 結花子	川崎 大輔	河本 佳子
鎌尾 留美	小宮山 由佳	高見 敦子
谷 香名恵	齊藤 肇	中川 真奈
柴田 彩子	油井 美紀	名手 真緒理
長谷川 友紀	高見 真里亜	横部 愛子
浦田 穂美	ソウ シュウショウ	スチンバトル
藤田 裕也	島崎 真依	チョウ セイ
松岡 隆子	キュウ レイ	ト キキ
オウ カ	ラクワドルジ オランコア	ト バイニ

現代生活学部		
4年次生	3年次生	2年次生
岩木 博久	家村 藍	谷本 早希
喜多川 綾	池野 静	北條 清恵
天満 美咲	伊東 奈央子	政木 彰
西川 璃	井上 佳南	松尾 賢
長谷川 いずみ	上田 恵	山下 真奈
道田 納都子	計良 英希	佐伯 麻真
安成 佳永	小池 梓	砂原 友里枝
奥村 香奈	下垣 純子	田中 裕子
片岡 沙知子	原田 由香	中江 加奈
岸田 有可里	坂東 恵里	和田 真那実
北村 絵梨子	堀 真里奈	オウ チョウラク
窪山 幸恵	政岡 由布子	
竹下 由香	特別表彰枠	
辻 恵	岩本 博久	
林 響子	理由: クラブ活動 (陸上競技)	
松井 香保里	鈴木 ひかり	
盛田 雅美	理由: クラブ活動 (女子ラクロス部)	
吉田 奈桜	砂原 友里枝	
藤田 奈緒美	理由: デザインコンテスト入賞	
浅田 裕子		

(敬称略)

平成20年度 特別奨学生 受給者一覧

1年生		2年生		3年生		4年生		5年生											
学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名										
日本文化 英語文化	浅野 碧	心理	磯部 朱美	日本文化	小野 結花子	英語文化	有水 啓太	日本文化	石田 龍一朗										
	中村 文音		岡部 友里		谷 香名恵		白井 竜児		加藤 あゆみ										
	岡崎 梓紗		古澤 嘉寛		藤田 裕也		前川 朝美		小山 直輝										
	佐々木 佑大		川内田 有美		松岡 曜子		イム ヨンスン		坂口 結香										
	浦上 朋未		長島 加奈		オウ カ		コウ ギンキ		寺内 優希										
	川口 和哉		渡辺 千明		フ ライ		サイ ガン		西尾 豪太										
	中村 祐太		笠原 佐世子		池田 孝		ム シュンエン		松永 俊介										
	濱口 あすか		高見 敦子		池田 愛		阿部 卓也		キン パ										
	松本 麻里江		横部 愛子		奥野 崇裕		池田 ゆかり		チョウ セイガ										
	山岡 直生		スチンパートル		橋尾 健太		佐藤 奈月		ハン セイウン										
山田 隆太	ト バイニ	前阪 圭佑	田浦 香織	フ ブンコウ															
井口 大志	高松 紀之	宮内 亜友	井田 徹哉	谷口 彩															
效口 祥太	原内 崇広	中島 安紀子	井上 裕規	古谷 佳奈子															
小林 由季	オウ チョウキョウ	中原 正夫	小林 真名美	浅野 由佳梨															
島田 晃司	ゲイ コウ	前川 静香	志野 徳英	武村 美幸															
橋本 智美	ゼン シュンバイ	松岡 淨美	竹中 智実	西村 直樹															
本多 美彩	ソウ レイエン	中林 歩未	中村 友徳	村田 鮎美															
ビジネス法 公共政策	川岡 智貴	チョウ ショウショウ	武田 寿万	堀 あゆみ	中尾 充典	野中 千尋	細田 有香	盛田 雅彦	吉田 奈桜	窪田 幸恵	奥村 香奈	竹下 由香	北村 絵梨子	上杉 有果	松尾 翼	山下 真愛			
	大倉 正寛	テイ アン	政岡 由布子	森田 純子	山内 啓輔	カツ セイヘキ	チョウ シザン	野木 涼子	安藤 昭弘	上好 なぎさ	北森 克樹	築地原 憲吾	野下 みどり	廣田 早容	松井 大輔	キョ エイグン	テイ ヨウ	リン コザン	チョウ リツハ
	二階堂 恵子	ハン ヨウ	下垣 純子	麻田 奈緒美	石川 達也	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン				
	経営情報	東 健太	石川 達也	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン						
		升岡 由貴	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン							
		堀谷 絵美	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン							
		小林 香織	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン							
		羽生 寛奈	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン							
		林 未希子	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン							
		東 健太	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン							
升岡 由貴		伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン								
堀谷 絵美		伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン								
小林 香織		伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン								
羽生 寛奈	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
林 未希子	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
東 健太	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
升岡 由貴	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
堀谷 絵美	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
小林 香織	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
羽生 寛奈	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
林 未希子	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
東 健太	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
升岡 由貴	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
堀谷 絵美	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
小林 香織	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
羽生 寛奈	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
林 未希子	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
東 健太	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
升岡 由貴	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
堀谷 絵美	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
小林 香織	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
羽生 寛奈	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									
林 未希子	伊庭 由佳子	高村 達也	西野 春香	森 康悦	ゲン ケイエイ	テイ レイキ	ホウ チョウ	リン コウ	リン シュンコウ	リン ホウキン									

平成19年度 国家試験合格者

社会福祉士

- 東 健太(心理福祉学部地域福祉学科)
- 升岡 由貴(心理福祉学部地域福祉学科)

精神保健福祉士

- 堀谷 絵美(心理福祉学部地域福祉学科)
- 小林 香織(心理福祉学部心理学科)
- 羽生 寛奈(心理福祉学部心理学科)
- 林 未希子(心理福祉学部心理学科)

平成19年度 帝塚山学園特別褒賞金 受給者一覧

受給ランク	取得資格・採用試験	学科	氏名	
Bランク	国家公務員Ⅱ種【相当】 ※陸上自衛隊一般幹部候補生採用試験 合格	法政策学部	法政策学科 猪瀬 江里奈	
	CCNP(主要2科目)	経営情報学部	経営情報学科 伊藤 和也	
Cランク	宅地建物取引主任者	経済学部	経済学科 木村 隆文	
		法政策学部	法政策学科 宮崎 淳二	
		法政策学部	法政策学科 前里 匡	
		法政策学部	公共政策学科 阿部 卓也	
		法政策学部	公共政策学科 岡山 貴子	
		法政策学部	公共政策学科 北浦 聖士	
		現代生活学部	居住空間デザイン学科 船田 浩行	
		基本情報技術者	経営情報学部	経営情報学科 買志 遼平
		ファイナンシャルプランナー2級	経済学部	経済学科 金 修平
			法政策学部	法政策学科 石田 和幸
Cランク	TOEIC 750点以上	人文科学部	英語文化学科 石丸 智恵	
		人文科学部	英語文化学科 藤本 由美子	
		人文科学部	英語文化学科 小宮山 由佳	
		人文科学部	英語文化学科 ソン シュウショウ	
		人文科学部	英語文化学科 ラグドルジ オランゴ	
		経営情報学部	経営情報学科 シ コウヨウ	
		経営情報学部	経営情報学科 チョウ キョウメイ	
		法政策学部	法政策学科 井上 賢智	
		法政策学部	法政策学科 草宮 圭	
		心理福祉学部	心理学科 細川 隆行	
Cランク	CCNA	経営情報学部	経営情報学科 伊藤 和也	
		経営情報学部	経営情報学科 伊藤 和也	
		経営情報学部	経営情報学科 伊藤 和也	
		経営情報学部	経営情報学科 伊藤 和也	
		経営情報学部	経営情報学科 伊藤 和也	
		経営情報学部	経営情報学科 伊藤 和也	
		経営情報学部	経営情報学科 伊藤 和也	
		経営情報学部	経営情報学科 伊藤 和也	
		経営情報学部	経営情報学科 伊藤 和也	
		経営情報学部	経営情報学科 伊藤 和也	
Cランク	地方公務員上級大学卒業資格	人文科学部	英語文化学科 石丸 智恵	
		人文科学部	英語文化学科 藤本 由美子	
		人文科学部	英語文化学科 小宮山 由佳	
		人文科学部	英語文化学科 ソン シュウショウ	
		人文科学部	英語文化学科 ラグドルジ オランゴ	
		経営情報学部	経営情報学科 シ コウヨウ	
		経営情報学部	経営情報学科 チョウ キョウメイ	
		法政策学部	法政策学科 井上 賢智	
		法政策学部	法政策学科 草宮 圭	
		心理福祉学部	心理学科 細川 隆行	

高校生ビジネス・アイデア・コンテスト2008

帝塚山大学経営情報学部・経済学部・法政策学部は「高校生ビジネス・アイデア・コンテスト2008」を今年も開催いたします。

このコンテストは、今年で6回目を迎えるもので、高校生が創造性とチャレンジ精神を発揮して、夢を実現するビジネス作りに挑戦することで、経済や社会への関心を高めてもらうのが狙いです。新事業、新製品及び新サービスの開発、あるいはコンピュータによる新ビジネスの開発などのアイデアを募集いたします。

優秀作品は、11月16日(日)のビジネス・アイデア・コンテストで発表を行い、各審査員と聴衆者の投票により各賞を決定いたします。また、各賞受賞者は本学HP等に掲載されます。



前回の優秀作品表彰式

応募期間 7月17日(金)から10月7日(日)

コンテストの詳細お問い合わせ・応募先

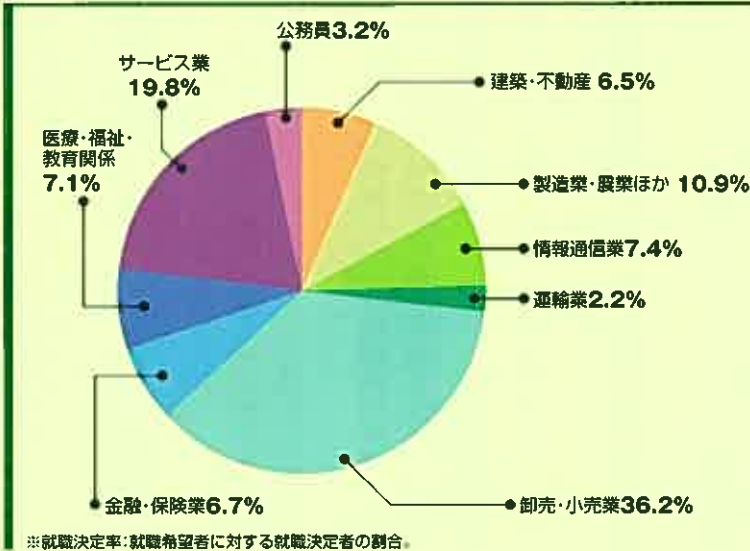
帝塚山大学インキュベーション・プロジェクトチームまで
〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1

電話の場合 TEL.0742-48-9202

インターネットの場合 http://www.tezukayama-u.ac.jp/KEIJO/bit/business_high.html

就職データ 就職率の高さを数値が実証！

2007年度就職決定率 **97.7%**



帝塚山大学の就職決定率は2004年度96.9%、2005年度99.3%、2006年度98.9%、2007年度97.7%と、安定して高い数値を誇っています。また、無業者率（卒業生に対する無業者の割合）は約12.3%と低い数値となっています。

人文科学部 学部別就職決定率 **97.4%**

名古屋製酪(株) デュプロ(株) センコー(株) (株)上組
シャープビジネスコンピュータソフトウェア(株) 大阪厚生信用金庫 大和信用金庫 スガキコシステムズ(株)

経済学部 学部別就職決定率 **98.6%**

大和ハウス工業(株) 東建コーポレーション(株) (株)伊藤園 富士通エフ・オーエム(株) カシオ情報機器(株) (株)モリタ (株)エスエスケイ (株)西武百貨店

経営情報学部 学部別就職決定率 **97.0%**

日本電気(株)(NEC) 住友電気工業(株) 日本食研(株) NTT西日本 JR西日本 松下電工インフォメーションシステムズ 関電システムソリューションズ(株)

法政策学部 学部別就職決定率 **98.0%**

タマノイ酢(株) (株)イトーキ エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株) 三菱UFJ証券(株) (株)三菱東京UFJ銀行 京都信用金庫 近畿労働金庫

心理福祉学部 学部別就職決定率 **94.1%**

ダイワボウ情報システム(株) (株)飯急レールウェイサービス (株)ローソン 奈良マツダ(株) (株)関西スーパーマーケット 医療法人鴻池会 橿原市役所

現代生活学部 学部別就職決定率 **98.4%**

住友林業(株) 積水ハウス(株) タマホーム(株) 三機工業(株) 旭製粉(株) ヤマキ(株) 住商鉄鋼販売(株) (株)ニトリ オリジン東秀(株) 西洋フード・コンパグループ

*2008年3月31日現在

キャリアセンターの取り組み

本学では、学生一人ひとりが希望の進路に進むことができるよう、キャリアセンターと教員、職員が連携し、就職活動をきめ細やかにサポートしています。多くの大学では、3年次から就職指導を始めますが、本学のキャリアセンターは入学したその日から、充実した支援策で「就職に強い帝塚山」を実現しています。

1年次

導入期

～適性検査実施・きっかけづくり～

- 就職講演会
- 自己発見レポート
- フォローアップガイダンス
- YES-プログラム
- キャリアデザインⅠ
- インターンシップⅠ(導入)
- ほか

2年次

ステップアップ

～“社会”を意識する～

- 就職講演会
- YES-プログラム
- キャリアデザインⅠ
- インターンシップⅠ(導入)
- インターンシップⅡ(体験)
- ほか

3年次

実践

～具体的に動き始める～

- 就職ガイダンス・各種セミナー
- 業界・企業・仕事研究セミナー
- 学内合同企業説明会
- 就職模擬テスト・マナー講座
- 学生キャリアアドバイザー制度
- 就職力・自己開発ゼミナール
- ほか

4年次

内定に向けた
継続的なフォロー

内定獲得!!

資格取得支援

目的や適性に合った資格取得を
サポート実務系資格講座でキャリアアップ

●特別資格サポート制度

●エクステンション講座 (1年次～4年次)

●就職支援 就職支援で就職活動の実践的ノウハウを身につけ、希望企業にアプローチ ●キャリア形成支援 キャリア教育で自分を磨き、社会の一員として考え方や行動力を養う

Tezukayama-Recruiting-Festa 2009 Summer 学内会社説明会

2008年6月24日(火)・25日(水)、7月9日(水)・10日(木)の計4日間(いずれも13:30～16:30) 東生駒キャンパス・9号館2F「まほろば」で2009年3月卒業生対象学内合同会社説明会「Tezukayama-Recruiting-Festa 2009 Summer」を開催しました。

4日間で約70社の企業採用担当者が本学に来校し、学生との熱心な面談が行われました。



この企画は、現時点で採用活動を継続している企業が多いという好状況下で、就職希望の学生たちに、多くの企業と接触する機会を学内で持たせるために、1997年から開催しており、今年で12年目を迎えます。

参加頂いた会社は、製造業や商社など、学生のキャンパスライフではなかなか見えてこないが、日本の産業界に欠かせない企業・業界など、地元関西圏の実力派企業、卓越した技術力を持った企業が中心です。

参加企業様からは、「真剣な姿に、採用する側も身が引き締まりました(サービス業)」[この説明会に参加した学生に内定を出したい(製造業)]という言葉を頂いております。毎年この説明会への参加がきっかけで内定獲得に至った学生が多数います。また、夏以降も採用活動を継続する企業は多数あります。就職活動継続中の方はキャリアセンターまで相談に来てください。

和歌山・奈良の協力高校と協定を締結

帝塚山大学・初芝橋本高等学校
高大連携に関する協定書調印式



和歌山の初芝橋本高等学校（4月24日）、奈良の奈良女子高等学校（6月18日）、奈良県立奈良情報商業高等学校（6月30日）など、今年に入ってから近畿地方の高等学校5校と高大連携を通じての教育交流と相互発展を目的とした協定を締結しました。本校と近畿地方の高等学校との高大連携協定は、これで12校となりました。

協定により、相互の連携がより密なものとなり、入試ではよりスムーズに高大接続が可能になるとともに、各高等学校の生徒・教職員が、研修・教科研究の場として、帝塚山大学の施設などを利用していただくようになりました。

大学後援会総会・学外見学会

平成20年度大学後援会総会が5月24日、東生駒キャンパス6号館にて開催されました。大学後援会は、在学生の保護者の皆様で組織していただいております。当日は約300人もお集まりいただき、山本学長の挨拶に引き続き、小川後援会会長、山本学長の挨拶に引き続き、平成19年度の決算、平成20年度の役員人事、予算等の審議が行われました。

総会終了後には、中山副学長から「学生生活について」、落合副学長から「履修登録・成績評価について」と題し、学生が有意義な大学生生活を送るために保護者の方々に知っておいてもらいたいことの説明が行われました。学食での昼食の後、恒例となっている大学の

飛鳥保存財団との協定を締結



の教員らによる講演会、茶道部の学生たちによる野点、明日香村の村民劇団の公演などを予定しています。

7月18日に、飛鳥保存財団（明日香村、田代和理事長）と、飛鳥をフィールドとした生きた大学教育の推進、並びに飛鳥地域の保存・発展に貢献することを目的とした協定を締結しました。今後は、学生や地元住民、観光客らも交えたイベントや教育活動を展開予定です。

協定締結を記念して、11月15日に同村の石舞台古墳前にある「あすか風舞台」で野外シンポジウムを開催。本学の教員らによる講演会、茶道部の学生たちによる野点、明日香村の村民劇団の公演などを予定しています。

立地する奈良を紹介する学外見学会にも大勢の方に参加いただき、バス7台での移動となりました。今回の学外見学会は、世界文化遺産「古都奈良の文化財」に登録されている法相宗大本山で南都七大寺の一つである「興福寺」を訪問。人文科学部の森教授、戸花講師の案内のもとに、多川執事様の法話、東金堂や国宝館の見学などを行い、充実した一日を過ごしていただきました。



大学基準協会 認定評価

本学は財団法人大学基準協会による相互評価および認証評価を受け、2008年3月に「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2015（平成27）年3月31日までとする。」との認証評価を受けました。

学校教育法 大学設置基準により、大学は評価機関による認証評価を受けることが定められており、本学でも各学部・大学院等、部署毎の自己点検・評価報告書等の審査書類の作成や実地視察など、一年間に渡る審査を受けました。

本学は今回の評価結果を受け、自己点検・評価活動をさらに推進し、教育、研究および社会貢献活動の一層の充実に向けていく所存であります。



FDへの取り組み

FDとは、ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development) の略で、大学教員の教育上の資質向上のための活動のことです。特に「授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組み」のことを指し、大学改革の実施における重要な要素と理解されています。本年度からは、このFDに大学が組織的に取り組むことが法律で義務化されました。

帝塚山大学では、2002年度よりFD推進室を設置。教育の質の向上と確保のために以下のような様々な取り組みを行ってきました。

- 1) 6学部から1名の教員が各1回、全専任教員を対象とした公開授業を実施（年6回）。公開授業終了後には、担当教員と参加した教職員が、同授業についての意見交換を行う検討会を行い、結果を報告書にまとめ刊行し、全教職員へ配布するとともに図書館に配架。学生の閲覧にも供する。
- 2) 前期と後期の2回に分けて、全教員（専任教員・非常勤講師）を対象に授業アンケートを実施。終了時に報告書として刊行し、結果を報告書にまとめ刊行し、全教職員へ配付するとともに図書館に配架。学生の閲覧にも供する。
- 3) 学生を対象に、授業評価アンケートのを中心として教育環境全般に意見を聞く学生ヒヤリングを実施。
- 4) 外部からFD関係の講師を招き、教職員を対象に講演。年2回程度実施。
- 5) FD担当教職員の研修会への参加促進。

学生の目線に立ったきめ細かい対応・支援を行うためにも、教員の授業力向上、及び大学の教育力の質的向上を目指し、今後もFDへの取り組みを強化していきます。



2008年7月11日開催 同志社大学社会学部教授・教育開発センター長 山田礼子先生による講演「学士課程教育のなかでの初年次教育」

クラブ活動ニュース

軽音楽部は音楽が大好きです。

軽音楽部は部員50名を超える大所帯です。年に7回ライブを行い、活発に活動しています。彼らの共通のキーワードはスバリ。音楽を愛している。という事で、大学生生活を楽しく充実して過ごしています。

そんな軽音楽部の中でも、特に注目の部員がいます。前久保彰太さん（経営情報学部4年生）です。前久保さんは、軽音楽部の活動と並行して地元和歌山で、放課後呼出隊というバンドで音楽活動をしています。月に2回くらいのペースで、ライブハウスでライブをしています。時には、メジャーで活躍しているバンドと同じ舞台上立つこともあるそうです。

現在4年生の前久保さんは、卒業後もバンド活動を続けプロデビューを目指しています。現在2枚目のCDを製作中で、夢に向かって頑張る前久保さん。皆で応援していきましょう！！

軽音楽部は、音楽を愛している部員がいっぱいます。前久保君以外の部員たちも、レベルの高い演奏をしています。大好きな音楽を楽しむ彼らのライブに、ぜひ足を運んでみてくだ



レスリング部

西日本学生春季リーグ
(団体戦)2部3位入賞！

5月23日～24日、大阪府立体育会館において西日本学生レスリング春季リーグ戦が開催。レスリング部は2部リーグに参加し、4勝2敗で7校中3位という結果を収めました。リーグ戦(団体戦)参戦5年目にして初の入賞という快挙で、次のシーズンに期待の持てる結果となりました。



軟式野球部

2部リーグ優勝
1部リーグ昇格！

西都大学軟式野球2部春季リーグは6月20日全日程を終了。本学は2位の天理大学と8勝1敗で同率首位となり、6月20日の優勝決定戦で延長10回の激戦を制してみごと優勝を果たし、1部リーグ昇格を決めました。



硬式野球部

2008年度阪神大学野球
新人戦優勝！

硬式野球部は7月5日、関西国際大学にて開催された2008年度阪神大学野球新人戦決勝戦において、3年連続優勝の関西国際大学を6-4で制し、6年ぶり2度目の優勝を達成しました。



サンスアミ(サークル)

ボランティア活動は、継続することが大切です。



ボランティアの団体として創部から今年で7年目、福祉施設の「カンガルーの会」と交流、同施設から年に3回来訪してもらい、学内で交流も図っています。また、メンバーが県内の各福祉施設を慰問し、ボランティア活動しています。

卓球クラブ(サークル)

創部4年目で、大会入賞を果たしました。



創部から今年で4年目、人数も26名に増え、この6月には9名が奈良県大学卓球大会に出場、3部ながら、1位1名(女子)、3位2名(男子1名、女子1名)の入賞がありました。

あかね祭開催

—学園前キャンパス—

ゴールデンウィークの初日の4月27日(日)、学園前キャンパスにおいて第2回あかね祭が開催されました。あかね祭は旧短大時代の大学祭だった。西祭を踏襲し、学園前キャンパスの学生主催イベントです。今回は、キャンパスを賑やかに元気づけたい、との思いから「JAZZ UP」をテーマに掲げました。ハトの広場をメイン会場として、ライブコンサート、お笑いショー、子供向けキャラクターショー、学生パフォーマンス(クラブ・サークルの出演による披露会)が行われました。本学生や地域の方が親子連れで、20店舗の模擬店が繁盛しました。中では野菜市・陶器市が催され、野菜市の売上げは寄付されました。



各教室においては、音楽系クラブの合同演奏会、演劇部、邦楽部、落語サークルによる発表会、華道部、写真サークルによる展示、ゼミ発表が催されています。今回、1日限りのイベントでしたが、近隣の方を含め800名の方の来場がありました。イベントを主催したサークル(あかね祭実行委員会)の代表の吉藤明里さん(居住空間デザイン学科4年生)は、「昨年の学園祭を皮切りに昨年、今年のあかね祭と学園前キャンパスで学生イベントを行うことが出来て、本当に良かったです。これからひとつのイベントとして、続くことを願っています」と話しています。



帝塚山学術評議員(前)・帝塚山大学名誉
国立歴史民俗博物館名誉教授・文学博士
岩井 宏貴

風切鎌と風鎮祭

大風が吹き荒れるとされる「二十一日」は、旧暦の8月1日頃になる。この大風がおこるのは風の神がそうせしめるのだと、古くから人々は信じてきた。そのため二十日はもちろん、ふだんから屋根の両端すなわち鬼瓦、鳥彘に、鎌をとりつける風習があった。この

鎌を風切鎌といい、鎌で荒れ狂う風の神を切ってしまうというのである。この風習はかなり古くから各地に、また各階層にあったようである。法隆寺の五重塔の相輪にも風切鎌がつけられている。

また、風の神を特別に祀り、祭儀をするところもある。風祭で有名なのが伊勢の風の宮、大和の龍田大社である。なかでも龍田大社は天御柱命(志那都比古)、国御柱命(志那都比売)の風の神二神である。龍田明神が生駒郡三郷町立野に祀られていることには意味がある。大阪湾からの強風が河内側大和川の川面を這って大和盆地に吹き込んでくるもとも風の力の強

い所であるからであった。この龍田大社の風鎮祭は、6月28日から7月4日まで7日7夜営まれ、奉納される龍田神楽は古い形の大和神楽で著名である。



大学院所蔵資料紹介

春日舞楽面「陵王」

〜古代中国から伝わった武勇伝〜
帝塚山大学大学院人文科学研究科
博士後期課程一年
伊東 航(いとうわたる)

推古天皇の時代に古代朝鮮半島から伝えられた舞楽は、大宝律令(701年制定)によって設けられた雅楽寮によって学習・演奏されました。現在では春日若宮おん祭の神事芸能として国の重要無形民俗文化財の指定を受け、春日大社を中心に社団法人南都楽所が、その伝統を受け継いでいます。楽曲は百曲をこえていたようですが、曲名だけで伝わらないものも多く、そのうち仮面を用いるものは

三分の一ほどを占めていました。現在の遺品としては20余種の仮面が知られています。

写真は、中の坊若水作・春日舞楽面「陵王(關陵王)」の面です。大きさは人間の顔とほぼ近く、顎・目・頭部の竜の舌は別材で作って取り付けてあり、動くように工夫されています。この面はまだ新しいものですが、室町時



代に作られたものが春日大社に残されています。

「陵王」の面の由来は、古代中国の北斉(549〜577)の長恭という王です。長恭は容姿がとても美しく、兵士の士気が上がりません。そこで長恭は、いかめしい面をつけて戦に臨み、大勝利を得ます。この大勝利を喜んだ長恭の部下が作ったのが、「陵王」の舞であるとも伝えられています。由来にふさわしく、勇猛かつ威厳に満ちた表情をした面です。

BOOK REVIEW 新刊紹介

「源氏物語の風景と和歌」

人文科学部教授
清水婦久子著
和泉書院 / 15,750円(税込)
2008年6月発行



「光源氏と夕顔」

人文科学部教授
清水婦久子著
新泉社 / 1,050円(税込)
2008年4月発行



「国際紛争と国際法」

法政学部准教授
末吉洋文共著
経緯野書院 / 3,045円(税込)
2008年2月発行



「新福祉契約 英国の野心」

心理福祉学部教授
柏野健三訳
帝塚山大学出版会 / 2,310円(税込)
2008年3月発行



「日韓の瓦」

人文科学部教授
森 郁夫共著
帝塚山大学出版会 / 3,150円(税込)
2008年3月発行



「国際知的財産法の潮流」

法政学部教授
松岡 博香
帝塚山大学出版会 / 3,780円(税込)
2008年3月発行





大学院紹介

臨床社会心理学専攻

求められる心のケアと専門家の養成に向けて

人文科学研究科臨床社会心理学専攻 ■ 神澤 創教授

臨床社会心理学専攻の大学院は開設以来3年目を迎え、本年3月には第一期の修了生13名を送り出すことができました。今春、新たに入学した12名を含め、現在、21名の院生がともに学んでおります。

院生の臨床実践の場である学内の相談施設「こころのケアセンター」も年々利用者が増え、昨年度の来談者数は1,000人を超えました。当センターでは、個人相談はもとより、小学生のお子さんを対象に発達促進や社会性の向上を目指すグループ（のびのびクラス）、DVに悩む女性のためのグループ（さくらら会）なども行われ、地域に密着した臨床活動を続けております。

また、体験を通じた学びを重視する観点から、臨床心理学コースではイルカとのふれあいを中心とする動物介在活動や、学内の専用施設で行われるアドベンチャーカウンセリングといったグループワークを積極的に推進し、社会心理学コースでは、近年、社会的な問題となっている高齢ドライバーの安全運転に関するフィールド調査を行うなど、きわめて実践的な教育手法を取り入れておりま

す。さらに、昨年は本学と提携関係にある巴拉オ共和国のイルカ飼育施設（ドルフィンズバシフィック）において院生の合宿実習を行うなど、国際的な研究・教育実践を展開しているところです。

修了生の進路は、医療機関や社会福祉施設、児童養護施設に就職した者、大学に残って研修・研究を続ける者などさまざまですが、本大学院が臨床心理士養成の一種指定校に認定されていることから、臨床心理学コースの修了者はみなそれぞれに秋の臨床心理士資格認定試験に向けて準備を進めております。

不登校やいじめなど教育現場での問題のみならず、年間3万人を超える自殺者とその家族への対応や引きこもり対策など、心理臨床活動に対する一般のニーズは年々高まっており、それに応えうる専門家（臨床心理士）の養成はまさに急務といえます。

このような、社会が求める要請に直接応えることができるよう、本大学院では研究と実践活動を連携させながら、様々な現場で即戦力となりうる人材の育成に力を注いでおります。後輩たちの活躍にご期待ください。

学生選書・同窓会寄贈図書について



平成15年2月以来通算で14回実施、参加延べ人数132名の学生がその感性で選んだユニークな「学生選書」コーナーの図書は、東生駒キャンパスと学園前キャンパスの両図書館で現在3,000冊を数

えています。学術書・研究書しか置かないと思われてきた大学図書館に、「やわらかい」「おもしろい」「かるーい」図書群が居並ぶ様子は、それぞれの図書が強烈な個性を主張しているかのように見

えます。もちろん大学生ですから専門書も多く選ばれています。

当初の図書館としての目的は、これらの図書に興味を持って入ってきた学生にも学術書や研究書に眼を向けてもらおうという狙いもあり、今後学生選書がもっと充実して図書館全体の利用者がさらに増えることを期待しています。（昨年より、学生選書は大学後援会の協力を得ています。）

同窓会からも図書の寄贈を受けており、当初は両館それぞれのカウンター周辺に約730冊をまとめて置いておりましたが、いまは一部を残してほとんどが通常分野ごとの書架に分けて置いています。親しみやすい一般教養書がほとんどで、利用しやすい内容と形態の新書類が中心です。



授業専用ブログ

先生の担当科目について教えて下さい。
 一年生を中心に、Basic English、Speaking、Reading、Listening、Writing、そしてTalking about Japanと初めは基本的な英語能力を備りなく伸ばせるようなカリキュラムを組んでいます。そして2年生になると、更に実践的な英語運用を目指し、より専門的な学習に無理なく移行できるようにプログラムを工夫しています。
 先生の授業の特色を教えてください。
 一年生のSpeakingの授業に英語ドラマを取り入れていきます。体を動かして、役になり切ることで、学生たちは感情の伴った英語表現を覚え、使えるようになります。ちゃんとオーディションもしたんですよ。舞台では、ダンス・歌などが得意な学生には発表してもらいました。最初は緊張していた学生たちも、次第に大変熱の入った台詞が英語ですらすらと出てくるようになってきました。
 また、Blog/Interactiveな機能を授業に生かすという、Writing、Speakingなどのクラスで専用のBlogを立ち上げました。そこに私がLesson Planをアップロード。また、最近のニュースやイギリス



研究室訪問

「英語ドラマ」「ブログ」「DVD」

自ら「学習したくなる」授業を目指しています。

人文科学部 英語文化学科
 M・J・シエフナー 教授

の文化などについてトピックを上げ、学生にはWebで答えを調べて書き込んでもらうようにしています。もちろん英語です。さらに、目的を見れば、欠席の学生にも授業内容がわかるようになっていきます。
 また、私は、学期末のテストを行わないかわりに、授業と100% Conversation Testを行い、点数をつけるようなシステムを導入しました。そうすると、学生たちが必要にかられて、「自主的」に毎日予習をするようになるからです。この、毎日少しずつでも勉強するというのが肝心の点です。語学学習は入力の繰り返しで、トレーニングに非常に似ています。毎日繰り返し練習することで、いずれ体が自然に動くようになるのです。

英語習得に良いやり方はありませんか。
 私は、究極的には、英語を習得するために最も重要なのは「自主学習」だと考えています。自発的に、自分で学ぶという事です。学生自身が英語を話せるようになって、もっと理解したいという思い、学習するようになっていくなると結局英語は身につきます。その上で、できる限り英語に触れる機会を増やすという事です。

ただ、日本では「受動的」な学習態度の学生が多い。やはり、語学に限らず何かを学ぶには、先生の言っているのを聞いていただけでなく、「能動的」に実際にやってみることが肝要だと思います。ですから、私は授業内で「無理なへん」かつ「自主的」に、学生たちが英語を学習したくなるように「仕向けているつもりです」。

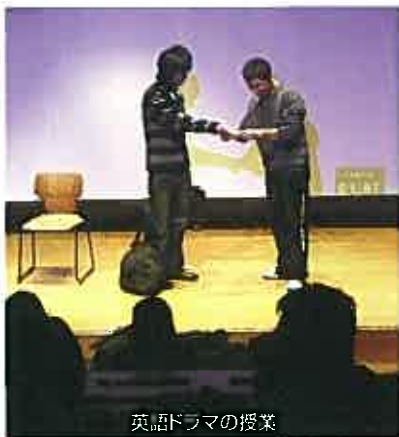
10年程前ですが、留学経験なしに驚くほどナチュラルな英語を話す学生がいました。彼女は同じ映画を繰り返し見て、録音して聞いて……という「自主学

習」をしていたのです。このように、工夫次第で英語に触れる機会はいくらでも増やせます。

英語文化学科では、「自主学習」にぴったりのDVDや書籍、オーディオブックなど様々な種類の英語教材を用意していますので、是非活用してもらいたいですね。

一例として、DVDを使った学習法を挙げてみましょう。好きはDVDの中から1つのシーンを選んで、最初は英語字幕をつけてみるのです。聞き取れるようになったら日本語字幕に切り替える。音だけで理解できるようになるまで繰り返し同じシーンをみる（聞く）。自分のペースで「自主学習」して、英語を英語で理解できるようになると、教材の使い方から指導します。

また、私はダンハム先生と（注）本学英語文化学科 教授）FAME (Fun And Meaningful Exchange) という英語フォーラム活動を行っています。学園前キャンパスで月に1回程度、英語でディスカッションができるような「場」を提供することが目的です。そのような機会を利用して、もっと



英語ドラマの授業



と英語を使ってほしいですね。実はこのフォーラムからは本学の「英語」による奈良観光ガイド人材養成プログラムに合格した人も多かったです。

最後に学生たちにメッセージをお願いします。
 私の専門でもある「異文化コミュニケーション」とは、異なった考え方を違う側面から捉えるということだということでもあります。その意味でも、外国語（英語）を学ぶということは、違う文化の人々とコミュニケーションが円滑に図れるようになるだけでなく、自国の文化、言葉、習慣などを別の角度から見られるということにもつながります。考え方に幅が出るのです。

例えば、日本語の「お願ひします」に相当する英語の表現は美はないと思います。でも、それを単に「違うんだ」で終わらせようとするのではなく、何か歴史的背景でもあるのかも？と調べて調べるのが、異文化コミュニケーションの第一歩であり、テスト勉強ではない本来の意味での「学習」すなわち「知的探検」です。だからこそ、英語を学習する中で、自らの価値観を広げてほしいと思います。

帝塚山大学は語学習得には大変恵まれた環境にありますので、目的を持って自ら進めていくべきです。そのためのアシストは惜しみませぬ。

源氏物語千年紀の活動

帝塚山大学人文学部日本文化学科教授 清水 婦久子

「源氏物語千年紀」の数ある催し物の中で、京都文化博物館の「源氏物語千年紀展」は最大の展示とされています。源氏物語の魅力によって紹介し、千年間の享受と文化を伝える内容です。私は、その企画委員として、展示企画から図録作成まで、当館の学芸員とともに深く関わりました。図録では、顧問の瀬戸内寂聴、企画委員長の片桐洋一とともに総論を担当し、展示構成を決める「源氏物語の千年」を執筆するほか、二種類の五十四帖屏風の場面解説、「源氏物語の巻名」「五十四帖屏風の中の源氏物語」「源氏物語の女性観」「源氏物語の和歌・引歌」「六条院の女君たち」「版本の本文と挿絵」という六編のコラム、「源氏物語和歌（抄）」、「名場面鑑賞」、版本や口語訳の図版解説など、図録の大半の原稿を執筆し、展示構成と図録の構成についてアドバイスをしました。

3月には京阪文化フォーラムで講演、4月にNHKセミナー3回（宇治市・大東市・高槻市）と京都検定（京都商工会議所）講座、4月25日に「千年紀展」記者発表、5月11日に京都文化博物館特別講座、6月の本学公開講座「源氏物語千年紀に寄せて」を企画、14日には講師をつとめました。6月28日には龍谷大学国文学会学術講演会の講師、7月5日には和歌文学会「源氏物語と和歌」特集で「源氏物語の和歌と引歌」のパネリスト、6日には、お茶の水女子大国際日本学シンポジウムでフランス語版源氏物語の監修をされたエステル・ポール氏、メトロポリタン美術館の渡辺雅子氏とともに講演をしました。5月15日にはテレビ番組「美祭完全生中継」の解説（BS京都）と、5月11月放映のテレビ番組「源氏の物語とは何か〜」(関西テレビ京都チャンネル)の監修と収録を随時行っています。

また、10月予定の京都文化博物館の秋展示「読む・見る・遊ぶ・源氏物語」の企画委員もしており、現在、打ち合わせと図録編集の準備中です。そして角川書店「大人のウォーカー」10月号（9月5日発売）巻頭特集（10ページ）「源氏物語、その魅力をひもとく」において、インタビュー「源氏物語研究者・清水婦久子が語る 源氏物語の名場面」「源氏物語 京都ゆかりの地をめぐる」などの担当を依頼されています。



源氏物語千年紀展

六十回を迎えた「正倉院展」

帝塚山大学人文学部日本文化学科教授 帝塚山大学奈良学総合文化研究所長 関根 俊一

毎秋恒例の「正倉院展」が今年も奈良国立博物館において開催されます。一昨年より帝塚山大学も協賛の一角に加わることとなった本展、毎年全国各地から多くの入場者があることもよく知られ、とくにここ数年は25万人を超える入館者数を記録しています。

中高生のための正倉院展講座



その記念すべき第一回目は、終戦後まもない昭和21年（1946）敗戦で疲弊した国民の心に、1200年の時を経て伝世した正倉院宝物は、まさに珠玉の輝きとして映り、文化国家として歩み始めた人々の大きな精神的支えになりました。いまだ混乱の世情、旅行も不自由なこの時期に、入場制限を実施するほどの人々が来訪。会期20日間（4月7日・4月8日）という入場者数が、何よりも人々の関心の高さを物語っています。

その後、昭和24年・34年（皇太子殿下（現・今上天皇）御成婚記念）、56年（昭和天皇八十歳聖寿記念）の3回が東京での特別開催となったため、奈良開催は今年60回目となります。私自身かつて同館に在職し展覧会を担当した一員として、いまだ人々の心を惹き付けてやまない「正倉院展」が還暦を迎えるにあたり、ひとこと慶賀の言葉を贈りたい。

なお帝塚山大学では、「正倉院展」協賛に関連して各種の公開講座等を開催しています。ご参加いただき正倉院宝物の魅力に触れていただければ幸いです。

帝塚山大学 2008年度秋期公開講座

正倉院とその時代

※開催要項は、決定次第、本学HP (<http://www.tezukayama-u.ac.jp/KOZA/>) に掲載予定です。HP掲載までは、お問い合わせは一切お受けいたしませんのでご注意ください。

10月4日(土)	第一回	演題 正倉院の精華 講師 関根 俊一(帝塚山大学教授)
10月18日(土)	第二回	演題 正倉院の文学を読む —正倉院文書の世界 講師 森 浩幸(帝塚山大学准教授)
10月26日(日)	演題 中高生のための正倉院展講座 講師 関根 俊一(帝塚山大学教授)	
10月31日(金)	演題 高校教員のための正倉院展講座 講師 関根 俊一(帝塚山大学教授)	

※そのほかにも公開講座を開催予定です。公開講座予定は、本学HP (<http://www.tezukayama-u.ac.jp/KOZA/>) に随時掲載しますので、是非ご覧ください。

読売新聞社主催の正倉院フォーラム2008

(9月19日(金) 於:東京)に、関根教授は昨年に引き続きパネリストとして参加の予定です。



安光日(アン・コウヒ)さん 大学初の日本国費外国人留学生

大学経済学部の4年生の安光日(アン・コウヒ)さんがこのほど、文部科学省の平成20年度・国費外国人留学生(国内採用)に本学で初めて選ばれました。

この制度では、私費外国人留学生の4年生の内、学業成績が特に優秀な全国の約100人が選ばれ、採用が決まると1年間、月12万6千円の奨学金などが支給されます。

安さんは中国・吉林省の高級中学を卒業し、2005年に本学に入学しました。向上心旺盛で成績優秀、とりわけ日本語の表現能力に長け、卒業後はアパレル関係の会社に就職を希望しています。

安さんは「他に優秀な人がいる中で、運よく自分が選ばれました。これを機に、勉学に励みいっそうのスキルアップにつなげたいと思っています」と喜びを語ってくれました。

四川大地震被災者への募金活動

大学では、中国四川省で5月12日(月)に発生した四川大地震被災地支援のため、在学の中国人留学生有志の呼びかけにより、同月31日まで学内ボランティアサークルなどの日本人学生と共同で、募金活動を行いました。

両キャンパスの各部局に募金箱を設置する一方で、本学有志団体が学生食堂の前で募金活動を行ったほか、放送研究会が昼休みの時間を利用して、募金への協力を繰り返し呼びかけました。また、大学後援会総会(保護者会)では、多数の保護者より寄付を受けました。本活動の最終日には、近鉄奈良線「学園前」駅改札南側コンコースにおいて、本学有志団体の学生たち20人が街頭

募金活動を実施しました。

集まった善意58万6,798円は、6月2日、東生駒キャンパスにて、学生たちから日本赤十字社奈良県支部の担当者に手渡されました。

本募金は同社を経由して、被災者及び被災地への支援に活用いただくよう、現地に送金されました。



学生相談室の紹介

学生相談室は、帝塚山大学の学生がより充実した学生生活を送ることができるように支援する場所です。これまでに、こころの健康のこと、勉強のこと、友だちづきあいのこと、家族のこと、恋愛のこと、などさまざま相談が寄せられています。カウンセラー(臨床心理士)はそれぞれの立場を大切にしながら、相談に来られた方と一緒に考えていきます。心理検査を受けることもできます。もちろん相談者の秘密は守られます。他にも、学生どうしの交流の場となるようにティーアワーやグループワークを開催しています。学生相談室のスタッフは、カウンセラーが学生相談室で、学生相談受付担当者が学生生活課で、皆様のご利用をお待ちしています。

学生相談室受付担当

学生相談室の受付担当者は、両キャンパスの学生生活課にいます。「学生相談室」という看板を掲げていますので、すぐに見つかると思います。学生相談を利用したいときはもちろんですが、「こんなこと、どこで相談したらいいのかな…」と思ったときなどにも、学生相談室・受付担当者に声をかけてください。適切な部署や相談機関を紹介します。

職員紹介

“学生相談室の人”は学生生活課にもいます

東生駒受付担当 寺前 友美

“登校して1日、大学内でトイレへ1度も行かない人なんていないだろう”そんな考えから、東生駒キャンパスでは、全トイレの全個室に学生相談室のポスターを貼り出しました。さて、まだ見たことなんか無いという人はいますでしょうか? 質問すれば、学生相談室を利用したことはないけれど、「ああ、知ってる。ポスターの所やろ」と返ってくるのが多くなりました。そのポスターや、学部事務室前などに設置している学生相談室だよりを作っているのが、私です。



普段は学生生活課に“受付”の看板を出しています。カウンター越しに「受付って何してるの? 相談に来る人いるん?」と尋ねられることも増えました。もしあなたが困っていたり質問したいことがあるなら、私がカウンセラーへ予約を取ったり、適切な部署へ連絡をします。それが私の受付での仕事です。

学園前受付担当 寺内 明子

学生相談室の受付をしています。大学生生活を送る中で、何か困ったことがあってどこの誰にどのように相談したらいいかわからないという時があれば、学生生活課までお越しください。相談に適した部署やカウンセラーを紹介します。



また特に困ったことがなくても、いつでも来てください! 皆さんが充実した大学生生活を送ることができるよう、一緒に考えたりそのお手伝いできればいいなと思っています。学生生活課でお待ちしております。



2008年1月4日午前8時48分、人文科学部日本文化学科一年生で韓国人留学生のゴ・シュンジャ (KO SOON JA) さんが交通事故のため奈良県橿原市内の病院で死去しました。事故から23日目、懸命の治療の甲斐なく逝ってしまいました。

事故は2007年12月12日午前に起きました。通学のためにいつものように自転車に乗って近くの駅まで向かっていたゴさんは、奈良県天理市内の信号のない交差点で、走ってきたトラックにはねられたのです。すぐ病院に運ばれましたが頭を強く打っており、瀕死の状態でした。

家族や友人が来日し、友人の留学生や担当の教員も駆けつけゴさんの回復を祈りましたが、最後まで意識が戻ることはありませんでした。家族の話では、ゴさんはおとなしく真面目で、辛いことがあっても黙って堪える芯の強い女性だったそうです。確かに、国際交流の事務室でも、それほど目立った存在ではありませんでしたが、留学生がしな

ければならない手続きは欠かさず行っていました。また入学当初から奨学金が支給される優秀な学生でした。

「これ、お土産にするの」。帰省先の韓国の親類宅で、日本の友達にプレゼントするため韓国海苔をカバンいっぱい詰め込んでいたというゴさん。臨地講義で社寺を見学、おみくじを引いたゴさん。来日して6年半、希望に胸を膨らませ本学に入学したゴさん。そのときどきの表情が眼に浮かびます。

まさか異国の地で命を落とすとは思ってもいかなかったに違いありません。将来、日本の良き理解者として日韓の懸け橋となる人材を夭折によって失ったことは大学教職員としては勿論、日本人としても痛恨の一言に尽きます。

事故から半年。現場は、今も1日約25,000台の車が来行しています。大学には500名を超える外国人留学生がいて、毎年100人以上が卒業していきます。ゴさんもその中の一人となるはずでしたが残念ながらそれは叶いません。しかし、彼女が帝塚山大学に確かに在籍し、僅か9ヶ月ではあるものの本学学生として種々の活動を行った証としてここに一文を遺したいと思います。

ゴさん、安らかに眠りください。

文・学生支援センター学生生活課国際交流担当

お知らせ

2009年度 帝塚山大学 特別選考 TF 方式のご案内

帝塚山大学では、卒業生、もしくは在学中の方のご家族を対象とする入試制度「特別選考 TF 方式」を実施しています。

「TF」とは、「Tezukayama Family」の頭文字をとったもの。帝塚山学園の建学の精神、学風を深くご理解いただき、共に本学の発展・振興にお力添えをいただける方の入学を歓迎する入試制度です。

出願資格は、帝塚山大学・大学院（短期大学、専攻科を含む）を卒業した者、または現在在学している者の2親等以内の親族（本人、子、孫、兄弟姉妹、父母、祖父母）で、2009年3月に高等学校などを卒業見込みの方です。その他詳しい資格要件に関しては、入試課までお問い合わせください。また、その他の入試についても、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先 帝塚山大学入試課 Tel. 0742(48)9149

■出願までのスケジュール	
説明会 ※必ず出席願います。	8月23日(土)・24日(日) 午前11時 ■東生駒キャンパス
エントリー用紙・志望理由書提出期日	8月25日(月)～9月4日(木) (消印有効)
事前面談	9月14日(日)
出願期間	9月17日(水)～9月24日(水) (消印有効)
選考日	9月28日(日)
合格発表	10月3日(金)

○エントリー用紙・志望理由書の配布
○学科別個別相談の実施(保護者同伴可)

右記説明会に出席できなかった方で、エントリー用紙の受領を希望される場合は、必ず提出期日までに申し出てください。提出期日以降のお申し出はお受けすることが出来ませんのでご注意ください。

面談を実施します。後日、面談の結果により、出願可能な方には、願書を送付します。(集合時間は個別に通知します)

作文
各個人宛速達便で発送します。学内掲示は行いません。

2009年度 大学学生募集				
区分	選考・試験日	出願期間	合格発表	
AO(前期)	事前面談等: 9月14日(日)	エントリー期間 8月25日(月)～ 9月4日(木)	10月3日(金)	
	試験日: 9月28日(日)	9月17日(水)～ 9月24日(水)		
AO(後期)	事前面談等: 11月29日(土)	エントリー期間 11月13日(木)～ 11月20日(木)	12月19日(金)	
	試験日: 12月13日(土)	12月3日(水)～ 12月9日(火)		
推薦入学選考	公募制推薦 面接型(専願)	11月3日(月)	10月10日(金)～ 10月23日(木)	11月8日(土)
	前期・前期(専門課程)	11月1日(土) 11月2日(日)		
	後期・後期(専門課程)	12月13日(土) 12月14日(日)		
一般入学試験	A日程	1月29日(木)～ 1月31日(土)	☆1月8日(木)～ 1月21日(水)	2月7日(土)
	B日程	2月22日(日) 2月23日(月)	☆2月2日(月)～ 2月18日(水)	2月28日(土)
	C日程	3月10日(火)	☆2月23日(月)～ 3月5日(木)	3月14日(土)
	試験利用 大学入学センター	前期 大学入学センター試験利用。個別学力検査は実施しない。	1月19日(月)～ 2月13日(金)	2月21日(土)
	後期	2月23日(月)～ 3月5日(木)	3月14日(土)	

【出願期間】最終日の消印有効。☆は最終日翌日の願書持ち込み可。



大学通信「帝塚山」企画編集委員会
〒631-8501 奈良市帝塚山7丁目-1

TEL.0742-48-9341 FAX.0742-48-9030 E-mail:koho@jimu.tezukayama-u.ac.jp
URL:http://www.tezukayama-u.ac.jp/

保護者の方々からの声をお待ちしております

大学通信「帝塚山」はキャンパスライフの紹介とそれを通じての本学と保護者の方々との双方向コミュニケーションの促進を目指しています。本誌の記事、本学の教育・研究内容などについて保護者の方々の投稿をお待ちしております。投稿要領は次の通りです。

- ①字数は400字程度。②ご住所、お名前、電話番号を明記してください。
- ③宛先は左記を参照してください。